北星論集(経) 第 27 号　　March 1990

女性労働と子育て

高　須　一　美

1. はじめに

金を得るための女性の仕事は，大別して家庭内職と家庭外職がある。内職は昔からあるし，子供や親の面倒をみながら仕事をするので，社会的にたいして問題にされなかった。高度経済成長期に大会社が時差出勤の定時パートを採用し，人手不足を補うとともに，安い人件費で会社の利益を増加させた。これが大会社だけでなく，中小企業にまで広がり，今では家族3人の自営業で1人の定時パートを雇うところまで来ている。この定時パートには，学校を卒業したての若々しい女性よりも，中年・初老の女性が多い。結婚するまで勤めていた銀行をやめて，子育てに少し手がかからなくなると，銀行の方で，そういう女性を登録しておいて，月の後半の仕事量が増えるとき，アルバイトとして雇う。商店がスーパーマーケットという形になると，未婚・既婚を問わず，チェッカーとしてパートで雇う。これは本人にとっても，スーパーにとっても都合のよい時間帯を選択できるので，願ったり叶ったりである。アルバイト・パートの賃金は極めて安いが，家計の足しにもなるし，自分で自由に使う事の出来る金が得られる。これは女性にとって，今の社会を知るだけでなく，ストレスの解消にもなる。学校給食が普及するにつれて，配膳という仕事があらわれ，短時間できれいな仕事というので，中年女性のパートには結構な仕事となった。中年女性のパートの仕事が増える前から，子供を幼稚園に入れることについて社会問題化したことがある。幼稚園から子供を教育したいので，園児募集の日は早朝から親の行列，または抽選ということになった。朝見送り，帰りは迎えに行く主婦が目立つようになった。子供が家にいない時間だけ，主婦は自由行動が出来る。幼稚園は数は増えたが，そのうちに保育時間を長くしてほしいという要望

が出てきた。このあたりから，主婦のアルバイトやパートが増えてきているようである。これに続いて，保育園を増やしてほしい，保育時間を永くしてほしいという声が上った。企業内保育も大きな企業では早くからなされていた。例えば国公立病院などである。保育園を増やしてほしいとの希望は，働く主婦が増えてきていることを意味する。昔は0才から3才が対象であったが，今は0才から6才までにいろいろのコースがある。一番スキンシップの必要な時期の子供を保育園にいれてまで働きに出るには，いくつかの理由があろう。第一に子育てのために離職すると，再就職は非常に条件の悪い所にしか出来ない。第二に贅沢に馴れた生活をもとの生活水準に絞ることの難しさ。第三に社会から家庭に戻る事による閉鎖的生活のためのストレス等々である。夫は企業戦士として夜遅くまで働き，帰宅は遅いし，家事や子育てを手伝ってくれないので，家庭内の仕事は子育ても含めて，主婦の肩にかかっている。従って家族が協力してくれなければ子供を預けざるを得ない。しかしここまで女性が無理して働く意義は何処にあるのだろうか。この研究論説は札幌市内の女性を対象にして，その労働と子育てを調べる。

2. 女性の性

創世の書第3章に次のように書かれている。「それから女に向かって仰せられた，……夫はおまえを支配する」。「それから男に向かって仰せられた，……生きつづける限り，おまえは苦労して，地から糧を得るであろう」。

これを字句から読むと，男は外で働き，女は男の指示通りに生きなければならない。悪くすると男尊女卑につながる。

マタイによる福音書第1章に，イエス・キリストの系図が書かれている。「アブラハムはイサクを生み，イサクはヤコブを生み，……ユダはタマルによってペレズとゼラを生み，……サルマはラハブによってボオズを生み，……」。この系図から読み取られることは，父系による表示である。男女の別はないと云いたいが，男の立場と女の立場は既にこの年代で異なっている。創世の書の前出の文章のあとに，「アダムは女を知った」と書いてある。この時から女は子を生み・育て・教育する事になってい

る。勿論素朴な頃の日々の生活であるから，今とは全く異なるが，男は生活の糧を求めて働き，女は男のもとにある。

最近あった事で云えば，一番人の目にふれたのは，宇野内閣の面々であろう。次から次と男尊女卑の言葉を吐き，保守党派の村長や町議会議員まで失言し，遂に参院選で自民党は敗北した。それでも今も新聞紙上や週刊誌に「マドンナ」という字を見かける。このマドンナと云われる人々には，上司によいメンターのいた女性であろう。能力があるのでひっぱり出され，メンターがよく彼女の世話をしたので，傑出した女性政治家となったのであろう。もともとはよき男性を得て普通の家庭生活をしていた人々である。マドンナになっても彼女らには家庭がある。社会的仕事をする為に引っぱり出された彼女らも，家族がよく協力してくれないなら，家庭崩壊につながる。簡単に云えば「男は外で働き，女は家を守る」という生活のあり方を持っていたのは，世の中の大多数の人々であった。女性自身についても根源的にはこれが原則であろう。「女の児は嫁にやるのだから，男の児のように教育しなくてもよい」。それで身に技能のない女性は，「もたれかかる」より仕方がなかった。東北地方に大飢饉が襲ってくると，娘を売る親が何年か前まであった。

経済大国日本で教育を受け就職し，身につけているのは一流の輸入品で贅沢をしてきた若い男女が結婚すると，夫だけの収入ではそれまでのように生活できないので，結婚前と同じく外に出て働く。こんな生活をするので子供は少ししか生みたくないし，生んでも積極的に子育てする思いはないかも知れない。特に結婚するのが遅かった知識人は一人生んで育てる，で精一杯というところ。いつかの新聞に妻となることを「セックス付き家政婦」と書いてあった。社会に出て働く女性が増えてから，上司に性的嫌がらせを受ける女性が増えてきている。働く女性の数が増えたので，これまで目立たずにすんだ事が，あらわにされただけで，昔からそうであったのだ。

3. アンケート

札幌市内居住者のうち，ランダムに選挙人名簿から選んだ女性について面接アンケートを行なう予定でいた所，企業体の長である人々が次々と難色を示したので結局次のようになった。

一企業の中で，全従業員に対して女性従業員の割合が大きい企業として，病院・生協・婦人子供服店・運動具店・喫茶店・小さい自営業を選んだ。それら企業の全従業員のうち女性従業員全員を対象とした。女性が働きながら子を生み・育て・教育することについての実態調査が目的であったが，いざアンケート用紙を手渡すと，家の中の事を覗き込まれているみたいで嫌いと云った。しかし概して云えることは，依頼した企業の上層部の人が積極的に動いていただいた所は何とかデータが取れたが，積極的でなかった所はデータが多く欠落していて，その企業体の様子を知るにふさわしくない所もあった。

3.1 01病院（医療法人 財団 2つの科を持つ 入院可）

1989年6月25日現在，全従業員51名，うち女性従業員41名。アンケート提出者39人，無効5人，有効34人(何とか有効も含む)。**表1**は**01病院**の年令層別人数・身分・結婚・子供の人数を示す（**表1**参照)。ここで専任とは正社員又はフルタイムの事であり，妻とは結婚しているが子供のない人を云う。30才代，40才代に人数が多い。子供の人数の平均値は母である人の子供の人数の平均値である。**表1**を職種別に見ると**表2**が得られる(**表2**参照)。34人中看護婦が61.8%を占めている。アンケート未提出，または無効は給食係に多く，特に最終学歴の低い人に多い。薬剤師・看護婦・栄養士は公的資格が必要であるので，病院全体での学歴程度は少し高い。高校卒・短大卒で炊事婦・掃除婦をパートでしている人は，結婚による離職者が，家庭に無理のかからないようにして再就職しているとみられる。結婚による離職者の復職年令平均は33.4才である。復職時の初子・末子の年令を**表3**に示す（**表3**参照)。初子の年令4才，末子の年令1才の看護婦の場合は近親者と同居。5才，4才の場合も近親者と同居であるので，家族の理解と協力が得られれば，子育て・教育は，特別な事がなければ，あまり心配しなくても可能である。しかし子供が1人で5才の場合，6才以上でカギッ子となっている。34人の従業員中11人は近親者と同居又は近親者が近所にいる。これですべてを論ずるのは，解答のない人のことを考えると不安である。書く事が出来なかったのは，家庭の中の事を覗き見られるのが嫌な人たちであろうし，無理をしている事を他人に見せたくない人であろう。**01病院**では手のかか

る子供のいる間は外来で，子供が少し大きくなると病棟勤務とする事が出来るようになっているので，専任として勤める人が多い。子育てについては少ししか記載されていない。**表4**にそれを示す(**表4**参照)。勿論記録されている以外のいろいろのやり方で考え考え子育て・教育しているであろう。例えば保育園に子供を預かってもらうのに行きと帰りはどうするか等である。多くの場合母親が送り・迎えをしているようである。

3.2　02病院（医療法人　2つの科を持つ　入院可）

1989年8月25日現在，全従業員110人，うち看護婦75人，給食関係7人，計82人の調査をした。薬局，事務関係等の女性は独身なので，調査の対象としなかった。対象としなかったのではなく，それだけの協力しか得られなかったのである。アンケート提出者63人，無効27人，有効46人（何とか有効も含む)。**表5**は**02病院**の年令層別人数・身分・結婚・子供の人数を示す(**表5**参照)。この病院の特徴は身分のその他の欄に記してあるアルバイト6人である。アルバイトとしてあるのは，現在看護婦の資格をとるために通学中の者である。20才代の人数が16人になっているのはそのためである。子供の人数の平均値は母である人の子供の人数の平均値である。**表5**を部門別に見ると**表6**が得られる(**表6**参照)。46人中看護係は36人で78.3%，母は24人で52.1%である。未提出のアンケート，また不完全アンケートで記録されていない部分が多いので，よく分からない。給食関係で特にそうである。公的資格による表示が出来なかったのは，それだけしか協力して貰えない雰囲気にあったからである。通学中の看護婦見習いは，病院側で通学できるように配慮しているとのこと。女性従業員の復職時の初子・末子の年令を**表7**に示す（**表7**参照)。**02病院**は子育ての記録が少ないのではっきりした事は云えない。0才の子供のある人は近親者と同居。4人は6才以上がカギッ子となっている。保育園・幼稚園・学童保育園の名称が記録されているが，現実には学童保育園の数は少なく，子供にとって放課後通園するのは，なが続きするであろうか。いろいろの関係のありそうな人々に尋ねたが，大部分の人はその時にならなければ分からないという答が帰ってくる。子育てについては少ししか記載されていないが，それを**表8**に示す（**表8**参照)。ここでも問題なのはカギッ子である。

3.3 01生協（札幌市内の店舗のみ，労働組合員を対象として）

1989年8月15日現在，**01生協**従業員のうち札幌市内に店舗のある労働組合員を対象としてアンケート調査を行なった。フルタイム320人，パートタイム1080人，計1400人である。労働組合員に限定したのはアンケート調査が割合い短い期間に収集できるからというだけの事である。収集したのは637人であったが，そのうち無効159人，有効478人(何とか有効も含む)。**01生協**は1日の就労8時間をフルタイム，6時間以下をパートタイムとしている。**表9**は**01生協**　年令層別人数・身分・結婚・子供の人数を示す(**表9**参照)。この表から見られる通り，アンケートが得られたのは，パートに傾いている。478人のデータから云うと，パートで働く女性は，40才代に集中しており，次いで30才代である。これは一寸考えても分かるのであるが，30才代では，まだ子供に手のかかる人が大部あり，40才代になると，子供は大きくなっているので，パートにでなら，働きに出られるという事である。今は，50才代でも健康ならば働いている女性が増えてきている。妻というのは**01病院**の所で述べたように，結婚していても子供のない人である。分類を職種別にするのも一つの方法であるが，全体の様子を知るためには**表9**（**表9**参照）の方が適当であると思う。パートは家庭生活を余り妨げないでお金を稼ぐに適当な方法である。パートに出るにも家族の理解と協力が必要である。**01生協**復職時の年令層別　初子・末子の年令を**表10**に示す（**表10**参照)。初子3才，末子0才で再就職した人の子育ての一貫性がなく心細い。初子4才，末子1才で再就職した人は，近親者がそばにいるので先ず安心。0才児1人の母親は近親者と同居。初子2才，末子1才で再就職した人の記録も一貫性がなく心細い。他の母親は家族の理解と協力があれば何とかなるであろう。**01生協**　年令層別　働きながら子育て・教育の状況を**表11**に示す（**表11**参照)。**表11**は（まあまあ有効な）アンケートに記録してあった印を集計しただけである。記録していなかった人は多かった。また重複して記録した人もあった。一番心配なのがカギッ子，192人いる。それも40才代の母親に多い。30才代がその半分なのは，就労している人数が40才代の1/3であることを考えると，子供の年令が小さいのに，無理をしているように思われる。

01生協のアンケートのうち，子育てについての部分を以下に記す。

(1)　0才以上3才未満の子供について

a．同居または近所に住む近親者に面倒をみてもらう

b．同居または近所に住む親しい人に面倒をみてもらう

c．企業内にある乳児室（保育室）で面倒をみてもらう

d．ベビーシッターに頼む

e．公立の乳幼児園にあずける

f．私立の乳幼児園にあずける

g．公立の保育園にあずける

h．私立の保育園にあずける

i．その他（　　）

(2)　3才以上6才未満の子供について

a．同居または近所に住む近親者に面倒をみてもらう

b．同居または近所に住む親しい人に面倒をみてもらう

c．企業内にある保育室で面倒をみてもらう

d．公立の幼稚園に行かせる

e．私立の幼稚園に行かせる

f．公立の保育園に行かせる

g．私立の保育園に行かせる

h．その他（　　）

(3)　小学校低学年の子供について

a．同居または近所に住む近親者に面倒をみてもらう

b．同居または近所に住む親しい人に面倒をみてもらう

c．放課後は親が帰宅する頃まで家庭教師に面倒をみてもらう

d．放課後は学童保育園にゆかせる

e．放課後は習いごとをさせる

f．鍵を持たせて家で親の帰りを持たせる

g．こずかいを持たせて，放課後は近所で自由に遊ばせる

h．その他（　　）

(4)　小学校高学年の子供について

a．同居または近所に住む近親者に面倒をみてもらう

b．同居または近所に住む親しい人に面倒をみてもらう

c．放課後は親が帰宅する頃まで家庭教師に面倒をみてもらう
d．放課後は塾に行かせる
e．放課後は習いごとをさせる
f．鍵を持たせて，家で親の帰りを持たせる
g．こずかいを持たせて，放課後は近所で自由に遊ばせる
h．その他（　　）

(5) 中学校・高等学校の子供について
a．同居または近所に住む近親者に面倒をみてもらう
b．同居または近所に住む親しい人に面倒をみてもらう
c．放課後は親が帰宅する頃まで家庭教師に面倒をみてもらう
d．放課後は塾に行かせる
e．放課後は習いごとをさせる
f．鍵を持たせて，家で親の帰りを持たせる
g．こずかいを持たせて，放課後は近所で自由に遊ばせる
h．その他（　　）

この設問は，集計してみて分かったのであるが，例えば，その他のところに，「放課後は友だちと一緒に家の中で遊んだり，勉強したり，外で遊んだり，友だちの家に行って遊んだり，勉強したり，外で遊んだり」と書いた人がいた。こういう記述式にするのも一つの方法であるが，書く人の人数はもっと減ると思う。子育て・教育についての解答が一番率が悪かったのは，家の中を覗き見されているようで嫌であるというのである。事実直接筆者にそう云った人もいる。子育ての記録の中で気になるのは，3才以上6才未満の欄である。この欄が空白の人が割り合い多かった。6才以上15才未満はカギッ子が多い。記録しなかった人の中にもっとカギッ子がいると思う。カギッ子は放課後何をして親の帰りを待っているかについての実態調査を公表してあるものはない。気になる部分である。また夕方になっても小学校の校門の所に5，6人の小学校高学年の女児が鞄を持ったまま帰るでもなく，入るでもなくしているのを一時期度々見られた。

3.4 02生協（大学生協のうちの一店舗）

1989年9月1日現在，全従業員26人，うち女性従業員20人で，定時パ

ートのみである。**表12**に「**02生協**年令層別人数・身分・結婚・子供の人数」を示す（**表12**参照）。定時パートでも人によって時間差がある。特徴は子供が休みの日には母親も休みであるということである。職種は書籍部，購買部，食堂部である。このうち，時間が集中して忙しいのは食堂部で，20人中15人を占めている。**01生協**と同じく，30才代，40才代に人数が集中している。**表13**に「**02生協**復職時の初子・末子の年令」を示す（**表13**参照）。**表14**に「**02生協**　働きながら子育て・教育」を示す（**表14**参照）。いずれも離職後再就職となっている。カギッ子が矢張り多い。クラブ活動で帰りの遅い子供より母親が先に帰るようになることもあり得る。

3.5　01商業（株式会社　婦人・子供服販売）

1989年6月20日現在，全従業員57人，そのうち女性は25人。札幌市内にいくつかの支店を持つ。2代目で株式会社となる。女性の職種は会長・常務取締役・取締役・チーフマネージャー・マネージャー・本店長・経理・販売員よりなる。**表15**は「**01商業**　年令層別人数・身分・結婚・子供の人数」を示す（**表15**参照）。**表15**より独身女性が68％を占めている。これは独身者を優先して採用したのではなく，若い女性は移動が激しく，次々と補充して行くが，居ついた女性がそのまま年をとっているのである。母のうち50才代の1人，60才代の2人は自営業者である。自営業でない母は4人であるが，1人だけ専任で，あとはパートである。専任の1人は近親者と同居している。自営業を除く4人の母の再就職年令は平均35.5才である。**01商業**は開店も遅く，閉店も遅い。休日は月に2回の見当である。**表16**に，**01商業**の自営業者でない4人の母の復職時の初子と末子の年令を示す（**表16**参照）。**表17**に「**01商業**年令層別子育て・教育（自営業者3人を除く）」について調べる（**表17**参照）。ここでもカギッ子が問題である。

3.6　02商業（株式会社　運動具販売）

1989年6月20日現在，全従業員15人，そのうち女性は5人である。札幌市内に一店舗。自営業で，社長・専務は独身女性，他の3人の女性は独身販売員。5人とも専任である。従って就労してる5人の女性は全部

独身である。親から受けついだ企業であるが，今の代で店舗拡張。社長60才代，専務50才代，販売員1人は10才代，2人は20才代である。**01商業**の場合もそうであったが，02商業の場合も未婚の女性が，母として就労する場合の意見をいろいろ述べている。

3.7 03商業（自営業 呉服・寝具販売）

1989年6月20日現在，夫・母・長男・女性雇用人1人の家族労働企業である。この雇用人は自分で，この店でパートとして働きたいと申し出た。その時初子16才，末子13才であった。以来10年余り，この企業で引き続き就労している。住宅と店舗は近い所にある。何時も親がいるので，子供はいつの間にか育ったという。

3.8 01接客業（株式会社 4つの店舗を持つ）

4つの店舗は異業種の接客業である。夫死亡後，2人の子供を持つ母親が常務取締役として経営している。まだ30才代である。

1989年8月25日現在，01接客業の全従業員は50人，そのうち女性は25人である。アンケート提出者24人。アンケート用紙作成より前に，経営者と面接，むずかしい事は出来ないと思い，設問を簡単にした。**表18**に「**01接客業**年令層別人数・身分・結婚・子供の人数」を示す（**表18**参照)。**表18**の身分の欄のその他は中学卒・高校卒のアルバイトである。経営者は学生アルバイトと云っていたので，よく見て高校在学中・各種学校在学中・短大在学中・大学在学中のいずれかと解した。低年令の人々の就労場所がこんな所にあったのである。パートと専任は結婚している。**表19**に「**01接客業**復職時 年令層別初子・末子の年令」を示す（**表19**参照)。**表20**に「**01接客業** 働きながら子育て・教育」の状況を示す（**表20**参照)

3.9 共働き

普通は夫婦のどちらかが働いている。大抵は夫である。子供の世話・家事は女性の仕事と做なされてきた。たとえ専業主婦と云っても，子供が保育園・幼稚園・学校などにいっている時間は，いろいろの活動をしている。文化講座をはじめ，ヘルスセンターからゴルフまで。ＰＴＡの

会合に出席するのも殆どが主婦である。ボランティア活動をしている人もいる。はまなす国体の裏方も殆ど主婦であった。こんなにする事が沢山あるのに，何故主婦業の外に，社会に出て就労するのであろうか。それには大別して二つあるであろう。一つははっきりした目的を持って働く人たち。もう一つは身近かに居た人たちが，次から次へと働きに出るので，自分も働こうというグループである。

第一の場合，高い学歴又は資格があり，それを生かし，更に進展させようという人々と，子供の学資を稼ぐ，マイホームを持ちたい，老後の生活費を稼ぎたい等々，いろいろあるが，こういう人々の就労は，同じ働くなら，目的意識をみたすに足る働きの場を探す。第二の場合，近所の主婦たちは，何処何処へ働きに行って，何万稼いだ。自分も働きに出よう。なるべく楽な所で，適当に収入があればよいというのである。子供のことも，家事も適当にしよう。子供が小学校4年になったのでいいであろう。というような具合である。無計画に新聞折り込みや，アルバイト誌を見て探す。急に就労する気になると，手近かにあるのはスーパーマーケットの食品関係の仕事で，ゴム前掛けにゴムの長靴という出で立ちとなる。疲れるし，パートのお金も少ない，もっと高い所へと点々と歩く。どこか良い所がみつかったという頃は，仕事に夢中になり，子育ても家事も，だんだん自分の頭から遠のいて了う。気がついた時は，夫も子供も家事もめちゃめちゃというケースもある。

専業主婦は，非行に走ったどこかの子供を調べたら，親は共働きであったと非難する。だから共働きしない方がよいと考えがちである。しかし共働きしていても，家族でよく話しあい，互いに理解し協力しあえば，主婦にとって大変なことは大変であるが，家族が納得ずくの上ですることであるので，何とか続くと思う。特に協力してほしいのは夫である。夜遅く帰ってきて，「さあ，飯だ，風呂だ，新聞にテレビ」では，子供の教育上よくない。親が先ず行い，親のすることを見て，子供は育ってゆく。

子供にとって，親のスキンシップは大切なことである。家に帰ってから，母親か父親かが，子供とだけ1時間程を毎日過ごすのがよいと云われている。出来なければ少なくとも30分。この時間を作るためには，夫婦の協力が必要である。たとえ近親者と同居していても，親でなければ

ならないのである。例えば放課後，家に帰って，子供は家のなかの方に向かって，大きな声で「只今帰りました」といって玄関の鍵をあける。玄関に入ると小黒板に，「お帰りなさい○○ちゃん，お八つは冷蔵庫にプリンがありますから食べて下さい。それからお花に水をやって下さいね」と書いてあるのを読む。子供は「いただきます」と大声で云って食べ，花に水をやる。こんな心づかいがあれば，大体家族でどのようにして生活しているかがうかがえる。

ＰＴＡの出席率が父親50%，母親50%にならなければならない。今の社会構造から云えば難しいかも知れないが，社会全体の機構がそのようにならなければいけないという事である。スウェーデンでは育児休暇を母親がとっても，父親がとっても，金銭的には同額の休暇である。特に子供が病気した時の休暇を，遠慮せずにとられるようである。日本はそれを後手後手でやっているが，国や地方公共団体が，率先して改善していってほしい。銀行が週休２日となった。不足した土曜日の分を，月曜日から金曜日までの間で補うため，行員の勤務時間が月曜日から金曜日までは，朝は早く夕方は遅くなったという。共働き，これは金を稼ぐだけのものでない筈。

3.10 学　歴

「高学歴なので結婚しても仕事を続ける。子供は少ししか生まない」という言葉を度々聞く。外で就労するためには子供は少ししか生めないのは当然の事であるが，高学歴とは何であろうか。アンケート調査をした８つの企業について学歴を調べてみよう。**表21**は**01病院**と**02病院**の対応するデータを加えて，小学校・中学校・高校・各種学校・短大・大卒の人数を集計したものである(**表21**参照)。准看を高校卒，正看を短大卒として換算した。病院であるから看護婦が多いのは当然であるが，２つの合計は86.25%となる。看護職は資格を必要とするので，スーパーでチェッカーとなるのとは異なる。**表22**で「**01病院**と**02病院**の人員をあわせた母の最終学歴」を見よう（**表22**参照)。２つの病院における母親は80人中46人で，そのうち高校卒が60.9%で，短大卒は37.0%である。人数は30才代，40才代に集中している。

次に「**01生協**と**02生協**の人員をあわせた最終学歴」を**表23**として調べ

てみる（**表23**参照）。**01生協**は478人と多人数で**02生協**は20人と少数であるので，**01生協**の中に**02生協**の特徴が消えて了うけれども，両方とも生協であるので合算することにした。高卒が70.3%，中卒が17.1%であるので，本人が健康であり，家族の理解と協力があるなら，ある時間帯にパートの仕事を続けることが出来るであろう。高卒が多いのは，高卒の絶対数が，中卒より多いことと，30才代の母はまだ子供に手のかかる時期であることも影響していると思う。**表24**で「**01生協**と**02生協**の人員をあわせた母の最終学歴」を調べてみよう（**表24**参照）。**表24**に見るように70.4%を高卒が占め，次いで17.6%の中卒である。生協は特技・資格に関係なく女性の就労しやすい企業ということになる。短大卒，大学卒はいずれもパートの母である。実はこうした生協や製造業にゴム前掛けにゴム長靴の人もいる。**表25**に，いずれも自営業である「**01商業**・**02商業**・**03商業**の経営者も含めた人たちの最終学歴」を調べてみよう（**表25**参照）。この３つの自営業では59.4%が高卒，18.8%が短大卒である。中卒がいない。各種学校も12.5%を占め，**表24**の生協の場合とは違う。次にこの３つの自営業のうち「母の最終学歴」を集計したのが**表26**である（**表26**参照）。母の人数が少ないのは，**01商業**が25人中７人しかなく，**02商業**は女性５人とも独身だからであろう。**表27**に「**01接客業**の最終学歴」を示す（**表27**参照）。学歴が低いのは中卒７人，高卒２人がアルバイトであることによる。パート５人は中卒または高卒である。経営者は大学卒である。低学歴，低年令の人たちの働く場所はこういう所にもあった。こうしたアルバイトは次から次へと移ってゆく。パートの場合もそうであるが，経営者が従業員の教育にかなり手がかかるのではないかと思われる。事実，この人と見込んで１年間かかって教育すると，やめてゆくと話していた。次に**表28**に「**01接客業**の母の最終学歴」を示す（**表28**参照）。以上共働き女性の学歴を調べたが，女性が簡単に職を得ている職場は40才代がピークであり，しかも高卒といったところである。公的資格の必要な他の多くの場合については次回に調査することにする。

3.11　共働きする理由

共働きする理由は次のようなアンケートで，複数回答も許して集計した。

(1) 家族の理解と協力が得られる
(2) 子供が園ぎらい・学校ぎらい・登園拒否・登校拒否・非行に走らなかった
(3) 自分が心身ともに健康であった
(4) 仕事が好き
(5) 家に，または近くに近親者がいた
(6) 近所の人と親しくしていて協力して貰えた
(7) 家族に長期にわたる病弱者がいなかった
(8) 家族に常時介護の必要な心身障害者がいなかった
(9) その他（　　）

表29は「**01病院，02病院**の人員をあわせた女性の共働き理由」をまとめたものである。解答は**01病院**の母14人，**02病院**の母16人，計30人についてである(**表29**参照)。病院の従業員の大半は女性である。従って設問1が29.4%，設問3が23.5%，設問4が21.6%を占めているのは頷ける事である。特に設問1については夫の協力が強く要望されているが，これについては後で述べる。設問4は公的資格を持つ人々にとっては，その資格を生かしてキャリアとして働きたいと思うのも当然の事であろう。**表30**は「**01生協**と**02生協**の人員をあわせた女性の共働き理由」をまとめたものである（**表30**参照)。726個のデータは母472人，妻12人（子なし）のデータであり，更にこれら母たちの70.4%は高卒である。生協でパートとして働くには経営者にとっても，これら従業員にとっても格好の働き場所と思われる。**表31**は「**01商業・02商業・03商業**の人員をあわせた女性の共働き理由」をまとめたものである（**表31**参照)。母と妻は計5人である。**表32**は「**01接客業**の女性の共働き理由」をまとめたものである。母は9人である(**表32**参照)。**表32**にかかげた接客業では，35.0%が仕事が好きと答えているが，公的資格を必要としないこの種の仕事は，好きな人々にとっては楽しい職種とみられる。

3.12 今働いている理由

今働いている理由は，次のようなアンケートで，複数回答も許して，収集した。

(1) 独身である

(2) 夫婦とも健在であるし，子供に手がかからなくなった
(3) 夫婦とも健在であるし，子供が成人した
(4) 子供の学資を稼ぐために
(5) マイホームを得るために
(6) 老後の生活費のために
(7) その他（　　）

表33は調査したアンケートのうち何とか有効な解答をした634人についてである(**表33**参照)。2番が33.3%であり，4番が22.3%であることは常識的なことであるが，まさに常識の通りの結果が出た。40才代が57.8%，30才代が21.2%となることも前に述べた通り，40才代の就労者が一番多く，次に30才代に多いことと一致している。

3.13 女性が働きながら，子育て・教育することについての意見

8つの企業における735人の女性が，企業単位ごとに1989年6月20日から9月1日までに述べた意見を集約したものを以下に記す。

(1) 子供がいて，家庭があって，社会に貢献し，自分を磨く仕事を持てる事は素晴らしい
(2) 国公立の職場のように，産前・産後などの休暇をとることができ，安心して子供を預ける環境づくりがないと共働きは難しい
(3) 職場の中や，市・国等の，託児・保育施設の充実，また学童保育や地域の協力がなければ，子供たちはすこやかに育つことができない。
(4) 現在はパート労働者が沢山いるが，厚生年金，雇用保険などの社会保障の法的な充実を早期に実現してほしい
(5) 社会は女性が働きやすい態勢になっていない。主婦がパートとして働くと，賃金が安く，離職の時の保障や，病気，怪我をした時の保障など，殆どないのが現状である。
(6) 女性も精神的・経済的に自立するのが望ましい。子供を育てながら仕事が出来るような環境を整えることが大切である。
(7) 能力のある女性がまだまだ沢山仕事を求めている。パート社員を多くして，休みや時間の調整で，そんな女性にも働くチャンスを与えたら。

(8) 共働きの場合，母親は子供の心を守ることの出来るような仕方で職につくべきである。

(9) 学校の役員の仕事，町内会の役員の仕事，子供の参観日，進学の問題など，その殆どが女性にかかっている。それで勤務先の労働条件や，家族の協力が必要である。

(10) 女性が少しでも社会で自立できるようにと思う。

(11) 小学生以下の子供がいる時，なるべく母親業に専念した方がよい。これも立派な子育て業という仕事である。

(12) 共働きであっても，子供も一個の人間なのだから，尊重して育てる義務がある。

(13) 「子供は親の姿を見て育つ」というから，当人が本当にその仕事を大切に思い，一生懸命ならば，子供にも心が伝わると思う。

(14) 何か資格を持っていたら，仕事を見付けるにも苦労も少なくできたと思う。子供には勉強させて資格を持たせたい。

(15) 私自身の心のどこかに子離れ・親離れのいいチャンスが恵まれ，とてもよい事と思う。

(16) 仕事につく前に，自分は何が出来るかという事を忘れ，生活・子供のためという目標が漠然としているように見受けられる。

(17) その人個人が何に価値観を持っているかによって，考え方は違うと思うが，子育てのためには，子供のそばにいる事が大切である。

(18) 子供に手がかかるうちは，4時間位の午前中の就労をし，手がかからなくなったら就業時間を6～7時間にと選ばれるようなシステムになっていれば，もっと働きやすいのではないか。

(19) カギッ子はよくない。子供が小学校低学年のうちは，子供が学校から帰ってくる時間には家に居られるような時間帯で働くようにするとよい。

(20) 働く必要があれば働かなければならない。女性は家庭を第一と考えるべきである。

(21) 女性が家に閉じこもって，悶悶していない方が溌剌婦人になれる。

(22) フルタイムで働く場合，時間的余裕がないので，仕事と子育てを両立させるのは非常に難しい。

(23) 今の職場は子供と一緒に休むことの出来る休日があるのでとても

よい。子供が母親の職場のことを知り，誇りに思って貰えるのも嬉しい。

(24) 夫の給料だけでやってゆけるのに，自分が着飾るために働いている母親もいる。母親の考え方で，外に出て働くことはプラスにもマイナスにもなる。

(25) サービス業の場合，盆・正月の休みを，家族と合わせることが出来ないのが一番困る。夜8時までの務めは食事の用意に苦労する。

(26) 母親は子供とのスキンシップ，父親は特に男の子との会話・体験を持つことが大切。

(27) どんな事があっても，3才までは親が抱きしめて育てた方がよい。

(28) 一日外に働きに出ることによって，子供が非行に走らないかと心配である。

(29) 男性が社会の一員として働き，家庭人（夫・父）として生きているのだから，女性も同様に生きていく事は当然の時代の流れである。

(30) パートで働くので精一杯。よくここまでやって来られた。

(31) 夕食は必ず一緒にするので，一日のコミュニケーションがとられる。

(32) 3人の子供を大学にいれたい。夫の給料だけではとても無理。

(33) 子供の病気が一番困った。でも仕事を持っていてよかったと思う。

(34) 母子家庭の場合，子供が非行に走らないように，母親は母親と父親の役割りを果たすように，働かなければならない。

この他に「家をあける事によって子供にかわいそうな思いをさせて了う」というのが度々あったが，年令を書いていないので削除した。0才から3才までの親の子育ての仕方によって，人間一生の人格形成の大筋が決まるという。この間，親から充分なスキンシップが得られない時，後にいろいろ問題が起こるという。しかし子供にとって精神的・身体的に不安定なのは0才から18才位までである。手抜きしないで子供の側にいてやるのが最良の方法である。父親の長期入院で，経済的に困った時，母親が中学・高校のわが子によく分るように話してやって，就労し，子供はよく母親を助けて，無事にこの期間をのり越えたという記事もあった。(16)に述べてあるように，漠然と金を得るために就労している母が多いと思う。(24)は現実の問題を述べている。就労し初めて貰うお金は化粧

品・衣類・贅沢な子供の玩具に消えて了うのを身近かに度々見る。今働いている母の子供と同年令の子供が，いろいろな事で問題児となっている。40才代の母の子供より，30才代の母の子供の方が低年令と考えると，子供の犯罪その他が低年令化している現状は当然のことであろう。先ず親がしっかりした考えを持つこと，これが先決で，その次に母の就労があり得てよいのではなかろうか。子供が悪いことをした，そこで学校側が親を呼んだ。その母親にして，その子ありというのが通例のようである。

4. 「女性労働と子育て」に関する北海道新聞よりの抜粋 (1989年4月5日より10月23日まで)

このアンケート調査は今でいう高学歴に該当しないが，その地盤である一般の層の現状を示している。社会が母の就労を容易にする程，整備されていない現状で，今のような家庭のあり方の中で成人した子供は一体どんな人間になっているのだろうか。アメリカは婦人解放運動の先駆であるが，過去200年に女性に教育を受けさせることによって，女性のあり方に影響を与え，社会を変える力となってきた。そのアメリカが過去100年かかってやって来たことを，日本は30年でやって来たという(マーサ・N・オザワ)。そして今年より来年はもっと急テンポで女性は社会に出てゆくだろう。最近の女性問題のいくつかを北海道新聞の記事からひろって見よう。

・1989年4月1日記事　婦人白書5
「男は仕事，女は家庭」の考え方に
同意する女性……1987年　36.3%
同感しない女性…1987年　31.9%
　札幌弁護士会の女性の権利に関する特別委員会が最近まとめた「性による分業調査でも，教師の54%が「母親は家庭に」と答えている。
・1989年4月29日記事「働くとき」新しい春抜粋
　時間外労働が増え，子供は夜一人で留守番をすることが多

くなった。そんな時，子供が泣きながら，初めて本音をはいた。「寂しい」「心細い」と。

・1989年5月20日記事「働くとき」専業主婦の決意

私は専業主婦です。どうせ働くなら，自分の能力に合った仕事か，子供は心から納得しているか，家族の健康は保てるか —— などを見極めた上で，心に余裕を持って「働くとき」を手にしたいと思うのです。

・1989年7月26日記事，日本教育心理学会での報告「家事は女性の仕事」

対象　神奈川県内の公立高校生約320人に対するアンケート調査，調査結果は

「家事は妻だけでなく，夫も分担すべき」

男子…53.1%　女子…68.6%

「女は炊事ができなくてはならない」

男子…80%　女子…68.6%

「女は掃除・洗濯ができなくてはならない」

「裁縫ができなければならない」

男子…73.3%　女子の過半数が肯定

・1989年8月15日記事，帯広市のカギッ子の家「学童保育センター」

帯広市の外郭団体「保育協会」運営。小学校の校区単位に一つずつ配置。小学校低学年のカギッ子を毎日，放課後から夕方まで預かる。夏休みは早朝から夕方まで。各センターには2人ずつの保母がいる。センターは全市18ヶ所。保育児童数約800人。

・1989年8月21日記事，週休2日制の導入に絡んでいろいろな職場で始業時間が早くなり終業時間が遅くなる傾向にある。そのためこれまで8：00から18：00としていた保育に，早朝保育と夜間保育が出来た。行政支援があるのは夜間保育のみ。早朝保育は父母の自主運営ということになった。

・1989年9月6日記事，保育園関係者の間では，「病児保育」を行なっていない。東京や大阪では十数ヶ所あるが，道内にはない。

・1989年9月29日記事，大蔵省は9月28日，自民党政調正副

会長会議で，パートや内職収入の非課税限度額を100万円とすることを報告，了承された。今年1月からの所得分に適用する。

・1989年2月実施の労働省「女子雇用管理基本調査」によると，育児休業制度の普及率は19.2%，休める期間を「子供が満1才になるまで」としているケースが約8割を占めているが，「満2才まで」「満3才まで」も見られる。

・1989年10月27日記事，ネピアの「赤ちゃん学の会」が2才6ヶ月未満の赤ちゃんを持つ母親の育児の実態や意識について調査したアンケート結果によると

①母親の自由時間は一日平均2時間

②75%の母親が赤ちゃんを預けて外出した経験があるが，預けるのは両親や夫で，ベビーシッターを利用したのは3%

ベビーシッター利用が少ない理由は

①身近かに預ける人がいるからが58%

②ベビーシッターに預けるのが不安が53%

・1989年10月28日記事，民間調査機関の未来予測研究所は，10月27日までに「出生数異常低下の影響と対策」と題する研究報告をまとめた。それによると，2000年には出生数が半減し，年平均110万人前後となり，「日本経済破局の事態も」の見出しをかかげた。

5. 「稲村博・小川捷之編 シリーズ・現代の子供を考える 全16巻 共立出版」より

今，構内暴力は児童・生徒間の暴力だけでなく，児童・生徒と教師との暴力へと移行しつつある。子供の数が少なくなり，親は就労，親自身も子供の育て方が分からない。核家族，しかも学校は偏差値で輪切りにして了うし，我慢すること，努力することは嫌いだし，等々で，子供は自分の感情で事に当る。当然の結果として，一寸した躓きが原因で，学校ぎらい・登校拒否・母親に対する暴力・非行に走る。学校が規則でしばりつけるので反発する。これらは共働き世帯だけでなく，専業主婦の一部の人々も経験することである。

泥棒もするし，ひったくりもするし，他家を傷つけたり，所かまわず

落書きをする。本人に罪の意識はあまりなく，一つの気晴らしのようなものである。これらの根源は世の大人たちが，大なり小なりこんな事をしているので，面白半分に徒をしているにすぎないと思っているらしい。テレビ・漫画・ビデオ・カラオケ・週刊誌等々，われわれが見る時，度がすぎていると思うことが度々ある。それを子供たちは見たり，聞いたり，真似したりする。

母親が生活のため，子供の学資を稼ぐためと称して，働きに出て得た金は，本音はこれまでより贅沢に生活するためというのがある。子供の数が少ないので，どうしても親離れ，子離れが遅くなる。教師にも行き過ぎがある。ミクロにものを見るので，マクロの世界を忘れて了う。

友だちは似たようなのがグループになる。一人では出来なかった悪さを，グループになればやってみる。子供は昔の子供のように遊び方を創るのではなく，お金で買ったビデオ・パソコンで遊ぶ。必然的に部屋に一人でとぢこもる。土の匂い・木の匂ではなく，アスファルトとコンクリートの中で生活すると，性格が変わってくる。分譲マンションの高層部に居る程，子供は外に出ない。

学校の勉強が分からなくなると，塾通いをする。塾のない日は習い事，では，子供が気を抜く時間がなく，だんだん疲れてくる。成績が下り出す頃から，子供は問題児になる。登校拒否になると，教師や親が学校までひっぱって行ったり，家庭訪問を度々やる。それよりも自立するまで，子供が納得するまで待つ方がよい。これは小学生だけではない。高校生でもあることである。そして一寸した弾みで死を選ぶ。こんな壊れ物の子供もいる。多感な，そして弱い意志を持つこともある子供を，あまり大切でもないことのために，一人ぼっちにさせる事なく，大学に合格するまで，側に居てやるのが本当の子育てと思う。

表1 01病院 年令層別人数・身分・結婚・子供の人数

年令	人数(人)	身分			結婚			
		専任(人)	パート(人)	その他(人)	独身(人)	母(人)	子供の人数(人)	妻(人)
10才～19才								
20才～29才	8	7	1		8			
30才～39才	11	9	2		3	6	15	2
40才～49才	10	10				10	20	
50才～59才	5	4	1		1	4	5	
60才～								
計	34	30	4		12	20	40	2
平均							2.10	
%		88.2	11.8		35.3	58.8		5.9

表3 01病院 年令層別復職時初子・末子の年令

年令	初子解答者人数(人)	初子年令合計(才)	末子解答者人数(人)	末子年令合計(才)
10才～19才				
20才～29才				
30才～39才	2	19	2	12
40才～49才	4	26	3	15
50才～59才	1	19		
60才～				
計	7	64		27
平均		9.14		5.40

表2　01病院 年令層別職種・人数・身分・結婚・子供の人数

年令	職種		身分			結婚			
	職種	人数(人)	専任(人)	パート(人)	その他(人)	独身(人)	母(人)	子供の人人数(人)	妻(人)
20才〜29才	薬剤師								
	正看	1	1			1			
	準看	2	2			2			
	栄養士	1	1			1			
	その他	4	3	1		4			
30才〜39才	薬剤師	1	1			1			
	正看	6	5	1			5	11	1
	準看	2	2			1	1	1	
	栄養士								
	その他	2	1	1			1	3	1
40才〜49才	薬剤師								
	正看	2	2				2	4	
	準看	5	5				5	9	
	栄養士								
	その他	3	3				3	7	
50才〜59才	薬剤師								
	正看	3	3			1	2	3	
	準看								
	栄養士								
	その他	2	1	1			2	5	
職種計	薬剤師	1	1			1			
	正看	12	11	1		2	9	18	1
	準看	9	9			3	9	10	
	栄養士								
	その他	11	8	3		4	6	15	1

表4 01病院 年令層別子育て・教育

年 令	近親者	親しい人	保育園	幼稚園	学童保育	カギッ子	塾	習いごと	放課後自由
10才～19才									
20才～29才									
30才～39才	5		1	1	1				
40才～49才	5		2	1	1	2			
50才～59才	1								
60才～									
計	11		3	2	2	2			

表5 02病院 年令層別人数・身分・結婚子供の人数

年 令	人 数 (人)	身 分			結 婚			
		専 任 (人)	パート (人)	その他 (人)	独 身 (人)	母 (人)	子供の人数 (人)	妻 (人)
10才～19才	3	2		1				
20才～29才	16	11		5	14	2	3	
30才～39才	7	6	1		1	6	8	
40才～49才	10	8	2		1	9	18	
50才～59才	7	6	1		2	5	8	
60才～	3	2	1		1	2	4	
計	46	35	5	6	22	24	41	
平 均							1.70	
%		76.1	10.9	13.0	47.8	52.2		0.0

表6　02病院　年令層別部門・人数・身分・結婚・子供の人数

年令	部門		身分			結婚			
	部門	人数（人）	専任（人）	パート（人）	その他（人）	独身（人）	母（人）	子供の人数（人）	妻（人）
10才～19才	外来								
	病棟	3	2		1	3			
	給食								
20才～29才	外来								
	病棟	15	10		5	13	2	3	
	給食	1	1			1			
30才～39才	外来								
	病棟	6	5	1		1	5	7	
	給食	1	1				1	1	
40才～49才	外来	1	1			1			
	病棟	7	5	2			7	15	
	給食	2	2				2	3	
50才～59才	外来	2	2				2	3	
	病棟	5	4	1		2	3	5	
	給食								
60才～	外来								
	病棟	3	2	1		1	2	4	
	給食								
計	外来	3	3			1	2	3	
	病棟	39	28	5	6	20	19	34	
	給食	4	4			1	3	1	

表7　02病院年令層別復職時初子・末子の年令

年　令	初子解答者人数(人)	初子年令合計(才)	末子解答者人数(人)	末子年令合計(才)
10才～19才				
20才～29才				
30才～39才	4	25	2	11
40才～49才	6	71	6	50
50才～59才	4	59	2	29
60才～	1	7	2	26
計	15	162	12	116
平　均		10.8		9.67

表8　02病院 年令層別子育て・教育

年　令	近親者	親しい人	保育園	幼稚園	学童保育	カギッ子	塾	習いごと	放課後自由
10才～19才									
20才～29才			2						
30才～39才	3				2	2		1	1
40才～49才	1		1			2			
50才～59才									
60才～									
計	4		3		2	4		1	1

表9　01生協 年令層別人数・身分・結婚・子供の人数

年　令	人　数 (人)	身分			結婚			
		専　任 (人)	パート (人)	その他 (人)	独　身 (人)	母 (人)	子供の人人 (人)	妻 (人)
10才～19才	1	1			1			
20才～29才	17	1	16		7	7	15	2
30才～39才	111		111		2	104	216	5
40才～49才	305	3	302		2	300	637	3
50才～59才	43	1	42			43	48	1
60才～	1	1				1	4	
計	478	7	471		12	455	920	11
平　均							2.02	
%					2.5	95.2		2.3

表10　01生協 年令層別復職時初子・末子の年令

年　令	初子解答者人数 (人)	初子年令合計 (才)	末子解答者人数 (人)	末子年令合計 (才)
10才～19才				
20才～29才	5	18	2	8
30才～39才	47	539	58	311
40才～49才	139	1,329	147	1274
50才～59才	13	177	21	220
60才～	1	4	1	1
計	205	2,067	229	1814
平　均		10.08		7.92

表11 01生協 年令層別子育て・教育

年 令	近親者	親しい人	保育園	幼稚園	学童保育	カギッ子	塾	習いごと	放課後自由
10才～19才									
20才～29才	3		2	2		3		1	
30才～39才	13	1	8	3	3	63	4	13	1
40才～49才	34	12	22	8	8	124	12	15	1
50才～59才	6	2				2	1		
60才～									
計	56	15	32	13	11	192	17	29	2

表12 02生協 年令層別人数・身分・結婚・子供の人数

年 令	人 数 (人)	身 分			結 婚			
		専 任 (人)	パート (人)	その他 (人)	独 身 (人)	母 (人)	子供の人数 (人)	妻 (人)
10才～19才								
20才～29才	1		1		1			
30才～39才	10		10		1	8	18	1
40才～49才	6		6			6	13	
50才～59才	1		1			1	2	
60才～	2		2			2	4	
計	20		20		2	17	37	1
平 均							2.2	
%					10.0	85.0		5.0

表13　02生協 年令層別復職時初子・末子の年令

年　　令	初子解答者人数（人）	初子年令合計（才）	末子解答者人数（人）	末子年令合計（才）
10才～19才				
20才～29才				
30才～39才	8	59	8	19
40才～49才	6	65	6	43
50才～59才	1	9	1	6
60才～	2	15	2	23
計	17	148	17	91
平　　均		8.71		5.35

表14　02生協 年令層別子育て・教育

年　　令	近親者	親しい人	保育園	幼稚園	学童保育	カギッ子	塾	習いごと	放課後自由
10才～19才									
20才～29才									
30才～39才	2	3	1	2		4		1	
40才～49才	2	1		1		3			
50才～59才									
60才～									
計	4	4	1	3		7		1	
%	20.0	20.0	5.1	15.0		35.0		5.0	

表15 01商業 年令層別人数・身分・結婚・子供の人数

年令	人数(人)	身分			結婚			
		専任(人)	パート(人)	その他(人)	独身(人)	母(人)	子供の人数(人)	妻(人)
10才～19才								
20才～29才	6	5		1	6			
30才～39才	8	7	1		6	2	4	
40才～49才	6	5	1		5	1	1	
50才～59才	3	1	2			2	4	1
60才～	2	2				2	3	
計	25	20	4	1	17	7	12	1
平均							1.7	
%		80.0	16.0	4.0	68.0	28.0		4.0

表16 01商業 年令層別復職時初子・末子の年令 (自営業者3人を除く)

年令	初子解答者人数(人)	初子年令合計(才)	末子解答者人数(人)	末子年令合計(才)
10才～19才				
20才～29才				
30才～39才	2	8	2	4
40才～49才	1	14		
50才～59才	1	10		
60才～				
計	4	32	2	4
平均		8.0		2.0

表17　01商業 年令層別子育て・教育　　（自営業者３人を除く）

年　令	近親者	親しい人	保育園	幼稚園	学童保育	カギッ子	塾	習いごと	放課後自由
10才～19才									
20才～29才									
30才～39才	1		1	1	1	1		1	1
40才～49才						1			
50才～59才	1					1			
60才～									
計	2		1	1	1	3		1	1

表18　01接客業 年令層別人数・身分・結婚・子供の人数

年　令	人　数 (人)	身　分			結　婚			
		専　任 (人)	パート (人)	その他 (人)	独　身 (人)	母 (人)	子供の人数 (人)	妻 (人)
10才～19才	9	1		8	9			
20才～29才	4	3		1	1	3	1	
30才～39才	3	2	1			3	3	
40才～49才	5	1	4			5	6	
50才～59才	3	3				3	5	
60才～								
計	24	10	5	9	10	14	15	
平　均							1.07	
%		41.7	20.8	37.5	41.7	58.3		

表19 01接客業 年令層別復職時初子・末子の年令

年 令	初子解答者人数(人)	初子年令合計(才)	末子解答者人数(人)	末子年令合計(才)
10才～19才				
20才～29才	1	1		
30才～39才	1	8		
40才～49才	2	33	1	15
50才～59才	1	10	1	1
60才～				
計	5	52	2	16
平 均		10.4		8.0

表20 01接客業 年令層別子育て・教育

年 令	近親者	親しい人	保育園	幼稚園	学童保育	カギッ子	塾	習いごと	放課後自由
10才～19才									
20才～29才			1	1	1				
30才～39才	1					1			
40才～49才	1					2			
50才～59才	1			1					
60才～									
計	3		1	2	1	3			

表21 01病院と02病院の人員をあわせた年令層別最終学歴

年 令	小学校	中学校	高 校	各種学校	短 大	大 学	計
10才～19才		1	1				
20才～29才		6	9	2	7		
30才～39才			7		10	1	
40才～49才			15		5		
50才～59才	1		6		6		
60才～					3		
計	1	7	38	2	31	1	80
%	1.25	8.75	47.50	2.50	38.75	1.25	100.00

表22　01病院と02病院の人員をあわせた母の年令層別最終学歴

年　令	小学校	中学校	高　校	各種学校	短　大	大　学	計
10才～19才							
20才～29才			2		1		3
30才～39才			6		7		13
40才～49才			15		4		19
50才～59才	1		5		3		9
60才～					2		2
計	1		28		17		46
%	2.1		60.9		37.0		

表23 01生協と02生協の人員をあわせた年令層別最終学歴

年　令	小学校	中学校	高　校	各種学校	短　大	大　学	計
10才～19才			1				1
20才～29才		2	12	9	3	1	18
30才～39才		14	89	14	7	1	120
40才～49才		51	227	5	17	3	312
50才～59才		17	21	1	1		44
60才～		1		29	1		3
計		85	350	29	29	5	498
%		17.1	70.3	5.8	5.8	1.0	

表24　01生協と02生協の人員をあわせた母の年令層別最終学歴

年　令	小学校	中学校	高　校	各種学校	短　大	大　学	計
10才～19才							
20才～29才		2	5		1		8
30才～39才		14	83	8	5	1	111
40才～49才		49	224	14	17	3	307
50才～59才		17	21	5	1		44
60才～		1		1	1		3
計		83	333	28	25	4	473
%		17.6	70.4	5.9	5.3	0.8	

表25　01商業と02商業と03商業の人員をあわせた年令層別最終学歴

年　令	小学校	中学校	高　校	各種学校	短　大	大　学	計
10才～19才			1				1
20才～29才			3	2	3		8
30才～39才			7	1			8
40才～49才			4	1	1		6
50才～59才	1		3		1		5
60才～	1		1		1	1	4
計	2		19	4	6	1	32
%	6.2		59.4	12.5	18.8	3.1	

表26　01商業と02商業と03商業の人員をあわせた母の年令層別最終学歴

年　令	小学校	中学校	高　校	各種学校	短　大	大　学	計
10才～19才							
20才～29才							
30才～39才			2				2
40才～49才			1				1
50才～59才	1		1		1		3
60才～	1		1			1	3
計	2		5		1	1	9
%	22.2		55.6		11.1	11.1	

表27　01接客業の年令層別最終学歴

年　令	小学校	中学校	高　校	各種学校	短　大	大　学	計
10才～19才		5	4				9
20才～29才		1	2	1			4
30才～39才		1			1	1	3
40才～49才		2	3				5
50才～59才		3					3
60才～							
計		12	9	1	1	1	24
%		50.0	37.4	4.2	4.2	4.2	

表28　01接客業の年令層別母の最終学歴

年　令	小学校	中学校	高　校	各種学校	短　大	大　学	計
10才～19才							
20才～29才			1				1
30才～39才						1	1
40才～49才		2	3				5
50才～59才		2					2
60才～							
計		4	4			1	9
%		44.4	44.4			11.2	

表29 01病院と02病院の人員をあわせた年令層別共働き理由

年　令	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
10才～19才										
20才～29才	1		1							
30才～39才	4	1	5	5	4	1	1			
40才～49才	8	3	4	3	1			2		
50才～59才	2		1	2						
60才～			1	1						
計	15	4	12	11	5	1	1	2		51
%	29.4	7.8	23.5	21.6	9.8	2.0	2.0	3.9		

表30 01生協と02生協の人員をあわせた年令層別共働き理由

年　令	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
10才～19才	1									
20才～29才	6	1	2	2	1					
30才～39才	56	8	64	14	10	3	12	14	2	
40才～49才	123	24	126		23	9	50	38	7	
50才～59才	19		21	57	1	1	8	7		
60才～	2		1	10			1	2		
計	207	33	214	83	35	13	71	61	9	726
%	28.5	4.6	29.5	11.4	4.8	1.8	9.8	8.4	1.2	

表31　01商業と02商業と03商業の人員をあわせた年令層別共働き理由

年　令	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
10才～19才										
20才～29才										
30才～39才				2						
40才～49才				1						
50才～59才	1	1	1			1				
60才～										
計	1	1	1	3		1				7
%	14.3	14.3	14.3	42.8		14.3				

表32　01接客業の年令層別共働き理由

年　令	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
10才～19才										
20才～29才				1						
30才～39才	1		1	1	1					
40才～49才	2	1	2	4				1		
50才～59才	1	1		1	1			1		
60才～										
計	4	2	3	7	2			2		20
%	20.0	10.0	15.0	35.0	10.0			10.0		

表33　今働いている理由(年令層別)　(1989年6月2日より9月1日までにアンケートした)

年　令	1	2	3	4	5	6	7	計	%
10才～19才	9						5	14	1.9
20才～29才	37	5		5	2		7	56	7.6
30才～39才	12	57	4	46	14	6	17	156	21.2
40才～49才	10	165	34	107	28	51	30	425	57.8
50才～59才	4	16	17	6	4	20	5	72	9.8
60才～	2	2	4			2	2	12	1.7
計	74	245	59	164	48	79	66	735	
%	10.1	33.3	8.0	22.3	6.5	10.8	9.0		100.0

6.　おわりに

この論説を書くためにアンケート調査をすることにしたので，北星学園大学から研究助成費をいただいた。紙上をかりてお礼申します。またアンケートに協力して下さった8つの企業にお礼申します。今回は札幌市内のごくありふれた庶民的な働く既婚の女性を対象とした。

参考文献

1．稲村博・小川捷之編　シリーズ・現代の子どもを考える　全16巻　共立出版
2．変わりゆく婦人労働　高橋久子編　昭和60年6月　有斐閣選書
3．職場のキャリアウーマン　池田和男／冨田安信編　昭和63年9月　東洋経済新報社
4．米国きゃりあうーまん事情　菅原眞理子　昭和57年3月　東洋経済新報社
5．昭和59年版　婦人労働の実情　労働省婦人局編　大蔵省印刷局／発行
6．昭和62年版　婦人労働の実情　労働省婦人局編　大蔵省印刷局／発行
7．昭和63年版　婦人労働の実情　労働省婦人局編　大蔵省印刷局／発行
8．女性のライフサイクル　マーサ・N・オザワ／木村尚三郎／伊部英男編　1989年1月　東京大学出版会
9．女性ニューワーク論　藤原房子・久保嬉子・天野正子著　1989年3月　有斐閣
10．明日を拓く女性経営者たち　国民金融公庫調査部編　1986年3月　中小企業リサーチセンター
11．女が働くとき読む本　中島通子　昭和63年9月　有斐閣
12．雇用均等時代の経営と労働　花見忠／篠原英子編　昭和62年7月　東洋経済新報社
13．日本の生活関連サービス業　国民金融公庫調査部　1988年3月　中小企業リサーチセンター
14．子育て母育て　井深大　昭和61年9月　東洋経済新報社
15．日本の労使関係　高梨昌　昭和61年10月　東洋経済新報社
16．〝子連れ出勤〟を考える　岩波ブックレット№122　1988年10月　岩波書店
17．3才までのしつけ　二木武監修　1985年5月　小学館

18. 登校拒否を考える　石田一宏　1989年４月　青木書店
19. 子供たちの家庭崩壊　中村好子・小川恒子・大嶋恭二　昭和61年11月　有斐閣選書
20. 子ども白書1989年版　日本の子どもを守る会編　1989年８月　草土文化
21. ルポルタージュ看護婦　亀山美知子　1989年５月　有斐閣新書
22. 男女雇用機会均等法前史　大羽綾子　1988年９月　未来社
23. 女と男生きかた問題集　林郁　1989年１月　晶文社
24. 主婦症候群　内山喜久雄・筒井末春・上野一朗監修　1988年11月　同朋会

1989年11月12日　了